

徳之島町 町誌編さん だより

(徳之島町内全戸配布)

第9号

2020. 05. 10

徳之島の環境と生物からの難問に、どう答えを出すか

——さあ、原稿を書くぞ！



徳之島町誌自然部会 部会長

はっとり しょうさく

服部 正策 (奄美群島文化財保護対策連絡協議会副会長)

『徳之島町史』の自然編の執筆を引き受けてしまったが、よく考えてみるとこれが意外と難しい。視点をどこに持って行くかによって、内容も大きく変化する。奄美大島の場合では、トカラ列島の悪石島以北の北琉球との違い、宮古島以南の南琉球との違いに注目して、中琉球の生物の特徴づけをおこなった。

徳之島でも同じ視点で書くことは基本であろうが、読んでみて分かりやすく興味を引く内容になるようにと要請されている。奄美大島で生活している私にとって、徳之島の最初の印象は「明るい」、「広い」、「力強く活発」であることだった。奄美大島は山と海の間狭い範囲で生活しているが、徳之島では広い耕作地を持つ集落があり、山ははるか後方にそびえている。耕作地の多くは海面からある程度の標高がある。それが琉球石灰岩の台地である。

奄美大島ではほとんど見ることができない琉球石灰岩は徳之島の生物を特徴づける大きな要素である。琉球石灰岩地帯の森や海岸林に入ると、ナナバケシダ、オオアマミテンナンショウ、アコウネツタイラン、オオナギラン、オオカナメモチなどの奄美大島ではほとんど目にする事のない種が普通に生育している。土壌がアルカリ性であることや、石灰岩地域に特有の湿度の高さなどが大きく影響していると考えていた。

ところが、沖縄島の本部半島の石灰岩の山群に登ってみると、徳之島での石灰岩地の印象と大きく異なることに驚かされた。奄美大島、徳之島ではごく普通種のアマミアラカシは、沖縄では石灰岩地域の山頂部でしか見つからないそうだ。路傍の希少種シソ科のヒメキセワタもそこに登らないと見ることができない。奄美大島、徳之島に広く分布するアマミテンナンショウの亜種オキナワテンナンショウもこの石灰岩地域にしか見られない。沖縄の2種類のカンアオイもそうだ。トクノシマエビネによく似たカツウダケエビネも、このような石灰岩の山にしか分布していない。

徳之島の琉球石灰岩は新生代第四紀(約260万年前から現在にいたる期間)に隆起したものだが、沖縄の中北部に点在する石灰岩の山は中生代(約2億5千万年前から6千5百万年前)に起源をもつ古い時代の石灰岩なので直接の比較はできないかもしれない。さらに、ほ乳類、鳥類、両生・は虫類などの脊椎動物は石灰岩、堆積岩などの地質とは関係なく分布しているように見える。唯一、アマミノクロウサギは石灰岩由来の地質のところには少ないように見える。アナウサギの仲間であるアマミノクロウサギは日常的に土に穴を掘って生活している。アルカリ土壌では指の肌が荒れるのであろうかなどと考えてみるが、確証はない。

徳之島の脊椎動物で奄美大島産とは特徴的に異なるのは、トクノシマトゲネズミの分化、ルリカケスやオーストンオオアカゲラ、オオトラツグミがないこと、オビトカゲモドキの分布、ヒャンとハイの違い、ハブの毒成分や体色、体形、習性などの違い、大型のカエルであるオットンガエル、イシカワガエルがないこと、奄美ではごく普通種のシリケンイモリもないことなどである。

奄美大島と徳之島とが分かれてから百数十万年と考えているが、その間に動物種を維持しにくいほどの過酷な時期があったのか。河川、沢などの陸水の維持が難しい時期があったのか。多くのことを説明できる分かりやすい徳之島の地史の仮説は作れないものかと頭をひねっているが、なかなかの難問である。

だが、私たちには強い味方がいる。「徳之島万華鏡」というホームページで有名な故中村正弘氏の残された数多くの写真である。改めてのぞいてみて驚いた。どうやって撮影したのか不思議になるほどのコウモリの写真とか、探していた徳之島産アマミヤモリや白ハブの写真もあった。さあ、頑張って原稿を書こう。

ふるさとを誇りに思うココロを子どもたちに！

— 『徳之島町史 副読本（仮称）』を通じて子どもたちに伝えたいこと—

私たちのふるさと・徳之島町には「いつまでも知っていてほしい歴史」や「いつまでも守り伝えていってほしい地域の文化」が数多くあります。オトナ世代の皆さんはどのような事柄を思い浮べるでしょうか？

現在、わたしは、これまでに編さん室に蓄えられてきたさまざまな資料とともに、新たに刊行される『徳之島町史』本編の原稿をもとに、徳之島町の歴史や文化をさらにわかりやすくまとめなおして、小・中学生向けの「副読本」の内容や目次案を考えています。

副読本が用いられる場面は、「学校で徳之島町の歴史を学ぶとき」、「徳之島町の文化を知りたいとき」、あるいは「町民や都会で暮らす出身者の方々がふるさとを振り返るとき」、「ふるさとを紹介したいとき」など、さまざまな場面が考えられます。そのようなときに題材を提供してくれるのは「副読本」です。

町民の皆さんや、小・中学生、高校生の皆さんが「ふるさと徳之島町」の歴史や文化について知り学ぶことで、ふるさとに誇りと、ふるさとを愛する心を持ち続けてほしいと心から願っています。刊行は令和5年度の予定です。楽しみにしててください。

岩下洋一（町誌編さん室町誌編さん専門員）

徳之島町誌編さん室の人事異動

編さん室員に異動がありました。新体制で気持ちも新たに編さん事業に臨みます。今後も皆さんのご支援をお願いいたします。

着任 郷土資料館兼町誌編さん室付係長 竹原祐樹 役場企画課より
前任 町誌編さん室主事補 東 慶久 鹿児島県東京事務所へ出向

町誌編さん事業日誌（抄）

年	月 日	内 容
令和2年	1月31日	徳之島町誌叢書（2）『徳之島町域「農村調査」報告集』刊行。
	3月31日	町誌編さん室主事補・東 慶久が出向。
	4月 1日	郷土資料館兼町誌編さん室付係長・竹原祐樹着任。

町誌編さん事業予定

年	月 日	内 容
令和2年	5月以降	徳之島町誌各専門部会（ <u>先史</u> ・ <u>古代</u> ・ <u>中世</u> 、 <u>近世</u> 、 <u>近現代</u> 、 <u>民俗</u> ・ <u>地域文化</u> 、 <u>自然</u> ）会議開催。
	8月	徳之島町誌編纂審議会会議開催。

※ お手元に古写真や古文書等がありましたら、町誌編さん室へご連絡ください。

徳之島町 町誌編さんだより 第9号

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

徳之島町生涯学習センター3階（徳之島町郷土資料館内） 電話番号：0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

本紙編集担当：大村達郎

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂（へんさん）」の表記を使用しています。本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。ご了承ください。

※ 徳之島町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。